

ロシア語の動詞アスペクト

井 桁 貞 敏

1. 序 説

ロシア語の動詞には同じ意味を表わすに完了体(**совершённый вид** perfective aspect), 不完了体(**несовершённый вид** imperfective aspect) という2種のアスペクト(相, 体)形があり, 大部分の動詞はこの一対から成る。完了体は動作を全体として一括してとらえ, 積極的に話を推進しようとする時に使い, 不完了体は動作をその動きにおいてとらえ, 動作そのものを名指すのを基本とし, 進展する単一動作や, 動作する意欲・志向・試みや, 往復過程を表わそうとする時に使う。

2. アスペクトを表わす形態

一般に単成動詞は不完了体であるが, 完了体も少しはある: **купить** 買う。単成動詞に接頭辞をつけると完了体となり, 意味も変ることが多い。接頭辞の作用:

1) 原義を変える。例 **писать** 書く > **списать** [完] 写す。この作用をする接頭辞は **в-, вз-, вы-, до-, за-, из-, на-, над-, о(б)-, от-, пере-, по-, под-, при-, про-, раз-, с-, у-** である。

2) 様態(**способы действия** procedurals, Aktionsarten) を変える, 例 **по-ходить** しばらく歩く。

3) 不完了体を完了体に変えるだけで, 意味も様態も変えない, 例 **с-дѣлать** する, し終える。こういう接頭辞は虚辞(empty prefix)ともいわれる。

接頭辞は主に運動の向う方向や運動の時間的進行を表わすので, 動詞に終局的動作の意味を与え易く, 動詞の完了化を促した。一定の対象を規定することが多いから自動詞を他動詞に変え易い。例 **вѣрить** 信じる > **ввѣрить что** を打ち明ける, 委任する。

様態の別 接頭辞をつけると様態の別を表わすことがある, その主なものをあげれば:

1) 始動的: **за-, по-, воз-, у-** など, 例 **заплакать** 泣き出す。

2) 没頭的: **за-ся** は没頭的動作を表わす, 例 **заговориться** 話に夢中になる。

3) 軽減的: **по-** は動作の進展の制限を表わす, 例 **поѣсть** 少し食べる。**при-, под-, над-** は進展の軽度を表わす, 例 **приоткрыть** ちょっと開ける。

4) 終局的: **до-** …まで…する, **от-** 必要な限度までやる, 例 **дочитать** …まで読む, **отработать** ある時まで働く。

5) 総括的: **про-, с-, на-** は動作の遂行の総括的程度を表わす, 例 **продѣлать** なし終える, **спеть** 歌い終る, **набрать** 集める。**пере-, по-** は配分的総括を表わす, 例 **перехворать** 次々と病気になる, **понаѣхать** 少しずつ多数やって来る。

6) 結果的: **до-ся** は(多くは好ましくない)結果を来たず動作を表わす, 例 **доиграться до слѣз** 遊びすぎて泣く。**из-** は過度な過程を, **на-ся,**

вы-ся は十分な動作を表わす。例 **иззя́бнуть** ひどく凍える, **напла́каться** 思う存分泣く, **вы́спаться** 十分眠る。

7) 持続的：**по-** は暫時の動作を表わす, 例 **поспа́ть** 暫く眠る。**про-** はある時間やり通す動作を表わす, 例 **проговори́ть** ある時間しゃべり通す。

8) 随伴・間欠的：**под-, при-** のついた不完了体は随伴的動作を表わす, 例 **подпры́гивать** 何かしながら少し跳び上る, **приговáraивать** 何かしながら言う。**по-** と **-ыва-/-ива-** はある時間にわたる間欠的動作を表わす, 例 **пока́шливать** 時々咳をする。軽減の意味を表わすこともある, 例 **бо́яться** 恐れる > **поба́иваться** ややおびえる。¹⁾

様態の別はアスペクトの別と交叉し, 互に作用する。始動・終結・制限のような様態を表わすものは多くは完了体しかもたない。状態の様態を表わすものは不完了体しかもたない。

完了化接尾辞 **-ну-** がついて完了化した動詞が約 300 ある。対応の不完了体は一連の動作を表わし, **-ну-** のつく完了体はその一動作を表わす, 例 **сту́кать**〔不完〕叩く： **сту́кнуть**〔完〕1回叩く。**-ану-** は口語的で, 一回の激しい動作を表わす, 例 **ре́зать**〔不完〕切る： **резану́ть**〔完〕ずばりと切る。

不完了化接尾辞 接尾辞 **-á-/-я́-** は単成完了動詞から不完了体を作るに用いられた, 例 **ко́нчить**〔完〕 > **конча́ть**〔不完〕終る。これを用いて多くの二次的不完了体ができた, 例 **собра́ть**〔完〕 > **собира́ть**〔不完〕集める。

接尾辞 **-ыва-/-ива-** は 17 世紀以来生産的で, 19 世紀後半以来ますます広まり, **-á-/-я́-** を圧倒した。両方をもつ動詞も多少ある。起原的には反復的・多回の意味をもっていたらしい。

反復動詞 接頭辞がなく **-ыва-/-ива-** をもつ動詞は多くは過去の常習的動作を表わすので, 反復(多回)動詞(**многokráтный** *iterative, frequentative*)といわれる, 例 **ко́сить**〔不完〕刈る > **ка́шивать**〔不完〕刈るのを常とする。反復動詞は 19 世紀以後には標準語では正規のものと認められていないが口語ではまだ広く用いられているし, 民衆語の特徴を出す文体的用具として使われる。

アスペクトの対をなさぬ動詞 不完了体だけの動詞がある。状態・所有・関係・行動や職務の性質・無人称動作などを表わす動詞である, 例 **лежа́ть** 横たわっている。完了体だけの動詞もある。始動・盛んにやり出す動作・終結的動作・軽減的動作などを表わす, 例 **постоя́ть** たたずむ。完了体にも不完了体にも使えるものがある, 例 **велéть** 命じる。また **-овать** をもつ外来動詞の多数がそうである。

アスペクトの対 接頭辞がついて新しい意味の動詞ができれば対応の不完了体が生じるのが普通である。例 **лить**〔不完〕注ぐ > **нали́ть**〔完〕注ぎ満たす, こぼす > **налива́ть**〔不完〕。ところが **де́лать**〔不完〕する, 作る からの **сде́лать**〔完〕に対しては ***сде́лывать**〔不完〕がない, これは **сде́лать** が原動詞に新意味を加えない単なる対応の完了体となってしまったからである。こういう動詞がかなりある。ある動詞では接頭辞に応じて種々の対ができる, 例えば **бить** は打つという意味では **поби́ть** と, 打ち殺すという意味では **уби́ть** と, 砕くという意味では **разби́ть** と対をなす。

二次的不完了体に更に **по-, на-, пона-, пере-** をつけて完了体を作ることがある, **по-** は重なった動作の集積した結果を, **на-** は集積した総体的結果を, **пона-**

は幾度にも色々重なった総体的結果を, **пере-** は相互作用の累積した結果を表わす。例 **крыть**〔不完〕被う。> **закрýть**〔完〕閉じる> **закрýвать**〔不完〕> **позакрýвать**〔完〕何度にも閉じる。この二次的完了体は対をなさない。

3. 過 去

完了体過去 完了体過去は動作の完了, それによる結果, 新事態の存在を表わす。持続動作でも総括して考えるなら完了体を用い得る。Он **прожил**〔完〕там **пять лет**. 彼はそこに5年間住んでいた。過去における先行動作, 後続動作を条件づける動作, 逐次的動作には完了体過去が使われる。Он **встал**〔完〕, **одéлся**〔完〕и **вышел**〔完〕из **дому**. 彼は起きて, 服を着て外へ出た。

完了体過去はその表わす出来事によって生じた事態が話している時または新たな動作がそれを変える時まで残存していることを表わす。Он с **умá сошёл**〔完〕。彼は気がふれている。Слой **руды залёг**〔完〕**óчень глубокó**. 鉱層は非常に深く層をなしている。

過去に限らず完了体を用いた文では動作を主語・述語・目的を含む総体的出来事としてそれらのすべてに注意を払い, ことに結果・目的に重きをおく, ところが不完了体を用いた文では目的に重きをおかない。それ故 **Вчерá я писáл**〔不完〕. きのう私は書きものをしていたは意味をなすが, **Вчерá я написáл**〔完〕. は意味をなさず, 目的語を要する。一般的の動作には不完了体を, 特定の補語をとる動作には完了体を使う。

Он **пил**〔不完〕**чай**. 彼は茶を飲んだ。Он **выпил**〔完〕**стакáн чаю**. 彼は一杯のお茶を飲んだ。**Лариса нарéзала**〔完〕**чёрного хлеба**. (Пастернак) ラリーサは黒パンを少し切り取った。

不完了体過去 不完了体過去は遂行中・持続中だった動作, 意欲・試み・傾向・復帰を含む動作, 結果・完了を考えない動作そのものなどを表わす。Он **дóлго читáл**〔不完〕**книгу**. 彼は長い間本を読んでいた。**Три гóда войска брали**〔不完〕**крéпость**. 3年間軍隊は要塞を占領しようとしていた。**Я брал**〔不完〕**книгу в библиотéке**. 私は図書館で本を借りていた(借りて返した)。**Кто брал**〔不完〕**книгу в библиотéке?** 図書館でだれが本を借りたのか?

完了体による問に否定で答える場合には不完了体に直すことが多い。**Вы получили**〔完〕**моё письмо?**—**Нет, не получáл**〔不完〕私の手紙を受け取りましたか?—いいえ, 受け取りません。

不完了体を使うと状況が流動的・描写的で, 人にその場にいる思いをさせる。**Кудá-то звонили**〔不完〕, **объясняли**〔不完〕. (В. Некрасов) どこかへ電話をかけて説明していた。

どんなふうに進行したのかを問題にしたり, 行為の真実性を示そうとしたり, 行為についての記憶を喚起したい時には不完了体過去を使う。**Это вы пускали**〔不完〕**в ход этот лифт?** このエレベーターは君が動かしたのか?

完了体過去が新事態への飛躍・転移を表わすに対し, 不完了体過去は動作を達成しようとする意図・試みや傾向を表わす。**Я ловил**〔不完〕**рыбу**. 私は魚をとろうとしていた。**И чем больше он жил, тем больше забывáл**〔不完〕**и под конéц действительно забýд**〔完〕。(Л. Н. Толстой)

そして暮していればいるほど忘れてゆき、とうとう本当に忘れてしまった。

両者のニュアンスの差が別語のように大きいこともある。Он сдал〔完〕экзамен. 彼は試験に受かった。Он сдавал〔不完〕экзамен. 彼は受験した。

完了体過去は現在と密接に関係する動作を表わすが、不完了体過去は現在と無縁な動作を表わす。Он приглашал〔不完〕меня в прошлом году. В этом году он не пригласил〔完〕. 彼は去年私を呼んでくれたが今年には呼ばないでいる。

不完了体過去は復帰を含む動作を表わすことがある。Почему книга такая грязная? Кто её брал〔不完〕? どうして本がこんなに汚れてるんだね? だれが借りていたんだい? 運動の動詞では完了体になると片道動作の印象が強いので、例えば Он уехал〔完〕лétом. 彼は夏に行ったと聞くと、まだ行ったきりでいるか、行ってから何か起ったのだなと思う。もう帰っているなら Он уезжал〔不完〕лétом. というべきである。

不完了体過去は単にどういう動作が行なわれたか、ある動作が行なわれたかどうかに関心をもつ時に使われる。Вы уже заказывали〔不完〕? もうご注文になりましたか? — Надо было заявить〔完〕тогда же. — Я заявлял〔不完〕(А.Н.Толстой) その時に届け出なけりゃいけなかったのだ。— 私は届け出ましたよ。

不完了体過去は文中の他の要素に重きがおかれる時に使われる。動詞に単に動作の種類を告げる役をしているに過ぎず、重きを置かれるのは動作の主体・動作が行なわれた状況や手段・動作の目的などである。Кто писал〔不完〕"Войну и мир"? 「戦争と平和」を書いたのはだれか? В этой портретной я написал〔完〕первое любовное письмо. Писал〔不完〕карандашом. (Чехов) そのビヤホールで私ははじめて恋文を書いた。鉛筆で書いたのだ。

否定の不完了体過去は具体的な現実の領域からの離脱を表わす。それゆえ"しようとしなかった、欲しなかった"意味になる。— ...Зачем забрала вокруг себя этих мужланов? — Я не собирала〔不完〕, я вообще не хотела. (А.Бек) 何だってあんな無教育な奴らを集めたんだ? — 集めやしませんよ。あの人たちが来るのはいやだったんです。

反復動詞 (слыхать, слы́хивать しばしば聞く, видать, видывать しばしば見るなど) の否定過去はその動作が全く行なわれなかったことを表わす。А я что и видела〔不完〕— не видела〔不完, 反復〕, что и слышала〔不完〕— не слышала〔不完, 反復〕 (Л.Н.Толстой) 私が見聞きしたのは今までかって見聞きしなかったことです。

4. 現在と未来

完了体現在形 完了体現在形は意図・予期される単一動作を全体的に把握して表わす。

Здесь и пообе́даю〔完〕, ここで食事をしよう。

完了体現在形は現在から未来にかけての動作を表わし、不完了体現在と並べても用いられる。Как то́лько вы́йдут〔完〕, и сразу же расхв́атывают〔不完〕 в магази́нах. (А. Мазон) 出るや否や店で買い尽されてしまう。

それゆゑ完了体現在形は現在未来と称すべきで、単に未来と称するのは当を得ない。

完了体現在形は時を確定しない意図的・予期的動作を表わすことがある。 **Здесь посидим**〔完〕, **Сюда никто не войдёт**〔完〕(Чехов) しばらくここにいきましょう。ここならだれもはいつて来ませんから。

完了体現在形は断固たる決意を表わすことがある。 **Не хочу я этого от тебя слышать. Не другие, а мы вперёд пойдём**〔完〕。(К.Симонов) 君からそんな言葉は聞きたくないね。ほかの人でなく我々が前進しようじゃないか。

完了体現在形の一人称複数またはこれに -те のついた形は……しようという勧誘を表わす。 **Пойдём(те)** 行こう。

二人称の完了体現在形は実行されるという穏やかな確信をもって指図するのに使う。 **И квáсу мне принесёшь**〔完〕, (Чехов) そしてクワスを少し持って来てくれ。否定とともに使えば丁寧な要請となる。 **Вы не поможете**〔完〕 мне? 助けて下さいませんか?

完了体現在形は必ず行なわれると思う動作を表わす。 **Такой своего добьётся**〔完〕。そういう人は必ず望みを達するだろう。

完了体現在形はその表わす動作の完了が他の動作の行なわれる条件となる動作を表わすことがある。 **Что будет, как старики перемрут**〔完〕? (А.Островский) 年寄りがみんな死にじまったら一体どうなるんだろう?

完了体現在形が条件を表わさずに不完了体と並んでいる時には、不完了体の表わす持続動作に対して迅速な動作を簡潔に、浮彫的に、挿話的に表わす。これは **кто, какой, кое-где, только** などで始まる文で著しい。 **Что за дёвка то была! Бывало, кто ни поедет**〔完〕, **всякий похвалит**〔完〕, **никто не осудит**〔完〕, **Барыни дарили**〔不完〕 её, **та платочками, та серёжками**。(А.Пушкин) あれは何といういい娘だったでしょう! どなたがおいでになってもおほめになって、悪くおっしゃる方は一人もなかったものです。奥様方はハンケチだの耳輪だのをやって下さいましてね。

完了体現在形は可能性を表わすことがある、ことに **каждый, любой** などのあとで。 **Дорогу туда любой человек покажет**〔完〕。そこへ行く道はだれだって教えることができる。

完了体現在形は具体的動作の反復や、その通常性・法則性を、現在への広がりを含めて例示的に表わすことがある。 **Действительно, в них(лабораториях) среда около собаки постоянно колеблется**〔不完〕: **появляются**〔不完〕 **новые звуки, кто-нибудь пойдёт**〔完〕, **стукнет**〔完〕...(И.Павлов) 実際実験室では犬を囲む環境は絶えず動揺している。新しい音が現われ、だれかが通り過ぎ、ノックする...

否定または否認的疑問の完了体現在形は、動作は可能だが起るまいということを表わす。二人称単数形の一般化人称がよく使われる。 **Ну как ему докажешь**〔完〕? **Это бесполезно**。(С.Воронин) だけど彼にどうやって証明するんだね? そりゃむだだよ。また主体がなし得ない動作を表わす。 **Ничего не поделаешь**〔完〕。どうすることもできない。

不完了体未来 不完了体未来(例 **бúду читать**)は現在と無関係な未来の動作を表わすが、アスペクト的に中立的な言い方をしたい時、ただ動作の種類をあげたい時、遂行の全体に強調をおかない時、ことに持続・反復・習慣を表わす時に用いられる。

起るべき動作が話手にも聞手にも分っているなら不完了体未来を使う。— **Вы бúдете сейчас выходить**〔不完〕? — **Нет, я бúду выходить**〔不完〕 **на следующей останóвке.** (Мотовилова) 今お降りですか? — いえ次の停留所で降ります。

動作そのもの・行なわれ方や動作者に関心がある時は不完了体未来を使う。— **Перевести, это так. — Да кто переводить бúдет**〔不完〕? (Лавренёв) 確かに移すがよいでしょう。— だけどだれが移すんですか?

不完了体未来は意欲や試みを表わす。完了体が遂行を表わすのでその現在未来形とは意味がだいぶ異なる場合がある。**Он бúдет сдавать**〔不完〕 **экзамен.** 彼は受験するだろう (**Он сдаст**〔完〕 **экзамен.** 彼は試験をパスするだろう)

不完了体未来は動作への着手を表わすことがある。“始めましょう”という勧誘・提議をすることも多い。**Поужинаем и бúдем ложиться**〔不完〕, 晩飯を食べてそれから寝ましょう。

否定の不完了体未来は“するのはやめましょう, したって仕方がない”の意味を表わすことがある。**Не бúдем сейчас спорить**〔不完〕. 今は議論するのをやめましょう。“もうしません”という約束を意味する省略形はこの用法の特徴的なものである。— **Не буду, не бúду, — торопливо произнесла Акулина.**

(Тургенев) “もう泣きません, 泣きません”とアクリーナはあわてて言った。

不完了体現在 不完了体現在は遂行中の動作, 習慣的動作, 史的現在などを表わす。**Вот он сейчас встаёт**〔不完〕. 彼は今起きるところだ。**Каждый день он встаёт в семь часóв.** 彼は毎朝7時に起きる。 **Пробило вóсемь часóв. Он встаёт, выходит**〔不完〕 **из дома.** 8時が鳴った。彼は起きて, 家を出る。

もう決っている計画や予定ならば未来の動作に関しても用いられるが平板・冷静な叙述である。完了体現在形を使えばしようとする意志・決意を表わす。**Завтра мы идём**〔不完〕 **в театр. Я утром пойду**〔完〕 **в театр и куплю**〔完〕 **билёт.** あした私達は芝居へ行くことになっています。私は朝劇場へ行って入場券を買います。

不完了体現在は種族一般に共通な習慣や自然現象も表わす。**Время летит**〔不完〕 **иногда птицей, иногда ползёт**〔不完〕 **червяком.** (Тургенев) 時というものは飛鳥のように過ぎ去ることもあり, 虫の這うように遅々としていることもある。

しかし習慣的動作は完了体現在形でも表わせる。完了体にするとその動作は潜在的・可能的になり, “することができる, 条件が整えば起り得る”など, 英語なら will で表わすところで, 生き生きした印象を与える。**Такси выручит**〔完〕 **вас в трудную минуту.** (Шмидт и Фролкина) タクシーは困った時にあなたを救い出す。

史的現在 過去の出来事を今行なわれつつあるかのように活写するもので, 口語でごく普通である。**Как + 完了体現在形**は不意・急激な出来事を表わす。**Тётя Катя не**

хотела ехать да как заплачет〔完〕(А.Н.Толстой) カー
チャお婆さんは行きたがらず、急に泣き出した。史的現在を過去に言いかえようとすれば、
持続的な過程は不完了体過去に、瞬間的な過程は完了体過去に言いかえねばならぬ。

5. 重複動作

普通は重複性を優先させ、完了動作の重複でも不完了体を使う。習慣を表わす副詞・副詞句が大きい役割をする。Вчера он написал〔完〕ей письмо. Каждый день он писал〔不完〕ей письмо.きのう彼は彼女に手紙を書いた。毎日彼は彼女に手紙を書いた。完了体を使えばまとめた一括的な言い方になる。

重複動作を、生起の一例をとって完了体で示すことがある。Несколько раз чуть не схватил〔完〕его.(Казаков) 数回彼をほとんど捕えそうになった。

接頭辞なき反復(多回)動詞(例 жить 暮らすからの живать)は過去にしばしば起ったがもう起らない動作を表わす。標準語以外の文体で使われるものとされるが、古風でややもったいぶった文体を擬して用いられる。今ではほとんど過去形だけで使われる。

В своё время он нашивал〔不完〕крест.(Ильф и Петров) 彼はかつては十字架をつけていた。しかし一般にはアスペクトの生きた組織の外に脱落して、僅かな名残をとどめるだけになった。

完了体現在形は散発的動作または連繫なき多数の動作の逐次的発生を生き生きと表わす。

— Вот так: родятся〔完〕, поживут〔完〕, умирают.(Горький) だれだってこんなふうさ。生まれて、暮らして、死んで行くのさ。

6. 命令法

完了体の命令法 単一動作をしてくれとの積極的な命令を表わす。動作そのものよりも動作の完了と結果に重きをおくから動作と目的とが緊密に結ばれている。それゆえ部分生格や作用を受ける数量が目的語たる文では命令法に完了体を使う。Выпей〔完〕воды (стакан воды) 水を少し(一杯の水を)飲みなさい。

別の動作が行なわれるための必要条件としての動作を要望するには完了体命令法を使う。Слезь〔完〕сюда, я тебя исповедаю.(Афанасьев) (きつねが雄鶏に)ここへ下りて来たまえ、聴罪してあげるから。

不完了体の命令法 命令する動作の内容が双方に分っており、ただ動作を名指しさえすればよい時は不完了体の命令法を使う。二人で実験をしていて準備ができたので相棒に“さあスイッチを入れて”と命じるには Включайте〔不完〕。

反復さるべき動作、原則としてしてもらいたい動作、必要な際には必ずしてもらいたい動作は不完了体の命令法でいう。Уходя гасите〔不完〕свет. 退室の際は消灯のこと。Зимой одевайтесь〔不完〕потеплее. 冬にはなるべく厚着をしなさい。

他の要素に重きがおかれ命令法は意味が軽い時は不完了体にする。Дверь открывайте〔不完〕неслышно.(Иванов) 音が聞えないようにドアをあけなさい。

不完了体の命令法は即座の、ほとんど自動的な反応を期待して使われる。完了体の命令法では発言と実行との間に心理的距離があり、実行の手段や事態にあまり関心がない。“今書

きなさい”は **Напишіте**〔完〕でなく **Пишіте**〔不完〕である。注意を促す **смотри**〔不完〕**気をつけなさい**, **слышь**〔不完〕**聞きなさい** などもここから来ている。

一旦命じたことを更に促すには不完了体命令法を使う, ***Да** などで強めることが多い。
Да́йте〔完〕**мне стака́н воды**. 水を一杯下さいと命じたのにいっこうくれなければ **Дава́йте**〔不完〕**же!** 下さいといったらと促す。

強要的の, 焦躁感をこめた命令は不完了体で言われる。Ну, не рассужда́ть—**исполня́йте**〔不完〕**приказа́ние**. (Иванов) さあつべこべ言わずにいいつけられたことをやりなさい。

不完了体命令法は懇請・説得・激励・容認・あきらめ・反抗など幅広いニュアンスを表わす。А ла́дно, остава́йся〔不完〕, Го́лько вот что. Не чита́й〔不完〕**ты бо́льше энциклопе́дию**. (А.Хмелик) 宜しい, ここにいてもよい。ただ, いいかね, もう百科辞典は読まないんだよ。

不完了体命令法は提議・脅迫などに対する無関心を表わすのに使われる。**Де́лайте**〔不完〕, **как хоте́те**. お好きなようにおやりなさい。

不完了体命令法は相手の為を思う心遣いを伝え得る。**Ку́шайте, ку́шайте**〔不完〕! 召上れ, 召上れ。

ドアをノックされた時, 相手がだれでも差支ないような中立的な要請または許可として **Войди́те**〔完〕おはいりなさいというが, 相手が知人だと分かれば **Входи́те, входи́те**〔不完〕! と招き入れる。しかしこのような習慣的な言い方を別とすれば不完了体の命令は一般に丁寧ではない。だがロシア人の間には不完了体の方が丁寧だという感じがあるらしく, 口語では不完了体を過剰に使う傾向がある。**Выздора́вливайте**〔不完〕/**Встава́йте**〔不完〕**поскорее**. お大事に(早くお治り下さい)。

否定の命令は不完了体が普通で, ことに進展中の動作の禁止, 将来にわたっての禁止には必ず不完了体を使う。否定の完了体命令法は次のような場合に使うだけである。

1) 用心せよという忠告, 切迫した警告。**Не захло́пни**〔完〕**дверь!** ドアをあけて大きな音を立てるな。

2) 切迫した要望, 切願。**Не взыщи́**〔完〕, **не осуди́**〔完〕すみません(責めないで)。

7. 不定形と接続法

先行せねばならぬ動作は完了体不定形で表わされる。**Вздума́ли они́ постро́ить**〔完〕**себе́ из сне́гу изба́нку и жить добро́м**. (Афана́сьев) 彼らは雪で小屋を建てて安穩に暮らそうと思いつきました。

始め・続き・終りを示す動詞にかかる不定形は必ず不完了体にする。**Он нача́л пи́сать**〔不完〕彼は書き始めた。不定形が **му** とともにまたは単独で“始めた”の意味で使われる時も同様。**И но́вые друзья́ ну обнима́ться**〔不完〕, **ну целова́ться**〔不完〕(Крылов) そして新しい友達は互に抱き合ったりキスしたりし始めた。

意志・意図・目的を表わす動詞の補語たる不定形は結果に重きがおかれるので完了体にすることが多い。**Он хо́чет всё услы́шать**〔完〕**от тебя́**. (Никола́ева) 彼はすべてを君から聞きたがっている。

希望を表わす独立の接続法または不定形 + **бы** はほとんどみな完了体をとる。 **Ах, скорее бы уйти**〔完〕。(Чехов) 早く行ってしまいたいものだ。

目的をいかに達するかという疑問は独立の完了体不定形で表わされる。 **Как мне вернуть**〔完〕 **время обратно?**(Николаева) 私はどうして時を取り戻せよう?

積極的な忠告は完了体不定形で表わされる。 **Самое верное в таких случаях—быстро встать**〔完〕 **и заняться**〔完〕 **делом.** (С.Воронин) そういう場合にいちばん確実なのは—さっさと立ち上って仕事にかかることだ。

絶対にいやだということは完了体不定形で表わされる。 **Я не хочу остаться**〔完〕 **здесь.** ここにいるのはどうしてもいやです。

Не может + 不定形は次のような意味の差ができる。

Он не может〔不完〕 **прийти**〔完〕. 彼は来られない。

Он не может〔不完〕 **приходить**〔不完〕. 彼は来るわけにいかない。彼は来てはならないのだ。

Он не сможет〔完〕 **прийти**〔完〕. 彼は来られまい。

Он может〔不完〕 **не прийти**〔完〕. 彼は来ないかもしれない。

Он может〔不完〕 **не приходиться**〔不完〕. 彼は来なくてもよい。

否定の独立不定形は完了体ならば“できない”, 不完了体ならば“してはならない, するわけにいかない”の意味になる。 **Не открыть**〔完〕開けることができない。

Не открывать〔不完〕開けるな。

禁止または“すべきでない”の意味は不完了体の接続法でも言える。 **Чтоб не слышать**〔不完〕 **я этих слов.** (Горький) そんな言葉は聞きたくもありません。

Нельзя + 不定形は完了体ならば不可能性を, 不完了体ならば禁止を表わす。

Нельзя перейти〔完〕 **улицу.** 通りを横断できない。 **Нельзя переходить**〔不完〕 **улицу.** 通りを横断してはならぬ。

不定形が述語をなす文では, 不完了体の場合はどういう動作かということを抽象的・一般的に表わしたり, 持続や意欲を表わしたり, さし迫って行なわなければならない動作を表わしたり, 不決断・当惑を表わしたりする。完了体の場合は特定の場合・具体的な状況における動作の遂行の可能性やその結果, 単一化した全体的動作を表わし, またうっかりやりはせぬかという懸念を表わすことがある。絶対的な。しかし心理的距離のある訓令には完了体不定形が用いられる。 **Попадать**〔不完〕 **под суд...не стоит игра свеч.** (Чехов) 裁判にかけられるなんて無駄骨折りだ。 **Ну, это долго объяснять**〔不完〕 (Нилин) さあ, それは説明するのに長くかかるな。 **Кому ходить**〔不完〕? (遊戯で) だれがやる番だ? **Она не знает, что делать**〔不完〕 (Аксёнов) 彼女は どうしてよいか分らない。 **Разыграть**〔完〕 **такого дурака: стрелять два раза и ни разу не попасть**〔完〕 (Чехов) こんなばかなことをやって: 二度も射って一度も当たらないなんて! **Как бы не упасть**〔完〕 倒れはしないかしら。 **Всем студентам собраться**〔完〕 **у главного входа.** (Белевицкая-Хализева) 全学生は正門前に集

合のこと。

8. 定・不定動詞

ロシア語には **ехать**〔定〕：**ездить**〔不定〕 乗って行く，**идти**〔定〕：**ходить**〔不定〕 歩く，行く，**лететь**〔定〕：**летать**〔不定〕 飛ぶ，**плыть**〔定〕：**плавать**〔不定〕 泳ぐ，航する など，不完了体中に更に定・不定を分つものがある。²⁾ 定動詞はある特定の時に一方向へ向う運動を表わす。不定動詞はそれ以外の運動を表わし，また複数の主体が種々の方向へ向う運動も表わす。

不定動詞はまた反復行程，しばしば2点間の往復運動を表わす。А не страшно вам столько раз туда и назад плавать〔不定〕?(Симонов) そんなに何度も泳いで行き来するのは恐くありませんか?

不定動詞は能力や，ある事物に特徴的な動作を表わす。Ребёнок уже ходит〔不定〕。赤ん坊はもう歩けます。Птицы летают〔不定〕。鳥類は飛ぶ。

しかし反復的・複雑な動作でも一括して考えるなら定動詞が使われる。定動詞は実現の可能性・必然性を表わすことがある。またすぐ未来に行なわるべき動作を表わす。Прибодит к морю, через море лежит кит-рыба, по ней идут〔定〕 и едут〔定〕(Афанасьев) 海へやって来ると，海を横切って鯨がおり，その上を人や馬が通れます。Мы идём〔定〕 завтра в цирк。(Власова) 私たちはあしたサーカスへ行きます。

定・不定動詞は完了体・不完了体の対立の中でその下位組織をなしているといえよう。

9. アスペクトと文体

ロシア語では動詞のアスペクトと時称は密接に組合わされ，文体に多様性と深みを与える。

不完了体は動きを追うので流動的・描写的であり，行なわれ方を目に見えるように述べるに適し，その場にいる思いをさせる。また人や物の特徴を述べるに用いられる。否定は“しようにもしない”という現実からの離脱・回避を表わすことがある。

完了体は新しい動作への飛躍・転回を活写する。その現在形は決意や確信を表わし，また迅速な動作を簡潔に浮彫的に表わす。可能性・潜在性を有するので常習的・恒常的な動作を例示的に生き生きと表わす。³⁾

10. 結 論

完了体を使う時は動作を全体として一括してとらえ，動き自身にはあまり注意を払わない。不完了体を使う時は動作をその動きにおいてとらえ，全体には注意しない。完了体の現在形は現在から未来にかけて完了しようとする動作だから“やっしまおう”というような積極的な表現になり，不完了体現在形は“今やっている”という消極的な表現になる。

完了体では動作を一括するので後続動作を条件づける動作や逐次的動作を表わすことになる。結果を含む全体をとらえるので他動性が強く，目的語が必要となる。予期する動作だから可能的・潜在的・散発的となる。命令でも何をなすべきかを新たに知らせる推進的なものになる。否定の命令で忠告や切迫した警告を表わすのは潜在性から来ている。

不完了体では動作の動きを追うので持続・反復・意欲・試み・傾向・復帰などを表わすことになる。過去では動きを追うだけで結果を考えないので現在と無関係な過去を表わすこと

になる。否定文では動作そのものを否定することになり絶対的否認、現実からの離脱や当惑を表わすことになる。動作の動きを考えると命令では即座の反応を期待することになる。

様態は動作の行なわれ方の別であり、話手は動作の種々の行われ方を表わす。アスペクトは動作のとらえ方の別であり、話手はその別を用いて、ある文脈における動作の表現に自分の欲する意味やシンタクスの・強調的・情緒的効果を与えようとする。

1976年9月

(注)

- 1) エス・エス・アヴィロヴァは様態を時間的(始動, 限定, 終局), 量的(一次的, 多回的等), 特別・結果的(終結的, 強度的, 集積的, 配分的等)に分けている(「動詞の体と動詞的の語の意味」, モスクワ, 1976, p. 272)。
- 2) ソ連のアカデミヤ「現代ロシア語文法」, モスクワ, 1970 では一方向動詞, 非一方向動詞と称している。
- 3) アスペクトと文体との関係については東田千秋教授還暦記念論文集「言語と文体」, 昭和49中の拙稿「ロシア語の文体」 p. 379 以下参照。